

中井だより

中井やまゆり園

お世話になりました

生活第二課長 狩野 恵子

2021年4月1日、桜が見事に咲き誇り素晴らしい自然に囲まれた中、講堂は重苦しい空気でした。第一印象は「大変なところに来てしまった。」というものでした。「課題山積みのこの施設で、25年ぶりに施設勤務の自分に何ができるのだろうか。」と思いました。ご家族・後見人の皆様へのファーストコンタクトも長時間居室施設虐待認定に関するお詫びの連絡でした。その後も何度も虐待報道に関するお詫びの連絡が続き、今年度はコロナクラスターでもご心配をおかけしました。そのたびに、暖かい励ましや労いの言葉をかけていただき本当に救われる思いでした。

利用者の皆さんお一人おひとりの豊かな生活の実現を目指して、1年目は身体拘束廃止、2年目は日中活動の充実を目標に掲げ、春寮・秋寮一丸となって取り組んできました。職員体制が厳しい中でも各寮長の抜群のリーダーシップで明るく前向きに「やってみよう」のチャレンジ精神で、ご家族・後見人の皆様にご協力いただきながら進めてきました。動きを止めることは許されない状況で、時には気持ちが追いつかないこともありましたが、皆様に支えられ、利用者さんの笑顔に勇気づけられながら何とか動き続けた2年間でした。

寮のみんなはまだまだこれからやりたいことがたくさんあります。寮長を中心に頼もしい職員たちが様々なアイデアを出し合って、利用者さんの思いに寄り添い、地域とのつながりを大切にして、さらに豊かな生活を実現していくことを信じております。2年間の短い間でしたが、濃密な時間をありがとうございました。これからも春寮と秋寮をどうぞよろしく願いいたします。

退職を 迎えて

生活第三課長 鈴木 健司

県に福祉職で入庁して36年、本当にあっという間に退職を迎えるという思いです。ここ数年は新たなことに直面することが多く、新たにチャレンジしては振り返りを行い、その繰り返しの連続で時の経つ速さが2倍、いや4倍の速さで毎日が過ぎゆくのを感じていました。

これまで、5か所の施設の現場を経験させていただき、共に苦労を分かち合い、まさしく戦友といった感情を抱かせてくれた同僚との出会いもあり、懐かしさと感謝の念に尽きません。

退職を目前にした最後の年に、経験豊かなアドバイザーが配置され、支援するにあたり利用者お一人おひとりのこれまでの人生を丁寧に見つめ直し、可能性を引き出すための支援、利用者職員との思いが合致する支援が、相互扶助を生み出すことをお教えいただき、あらためて支援することの尊さ、楽しさに気づかせていただきました。現在、これまでの支援を見直し、地域に目を向け地域と繋がる取組みを進めており、再整備以降、再び大きな転換を迎えたことを実感しています。

ここ数年、コロナ禍において、利用者の皆さんはご家族との面会も制限され、不安な思いで過ごされていたことと思います。そのような状況の中でも、面会の再開に思いを馳せ、日々の生活を頑張っている姿を目の当たりにすると、ご家族との絆の強さを垣間見た気がしました。

4月からは、再任用職員として、これまで以上に利用者さんとの直接的な関わりを大切にしたいと思っています。これまで、利用者さんはもちろん、ご家族、職員、多くの方との出会いを通して学びの機会をいただき、自身を成長させてくれたことに感謝を申し上げます。